



思考への探求

校内研究だより
令和6年9月24日
No.(3)

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～

9月24日に、今年度3回目の校内研究を行った。

今年度第3回目の校内研究を行った。今年度は、「考えることを楽しむ～全教科で育てる『言葉の力』思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～」を研究主題として研究を行っている。



3回目となる今回の校内研究は、「算数科」での実践となった。2年1組では、「分けた大きさのあらわし方をしらべよう」を飯尾教諭が、4年2組では、「垂直、平行と四角形」を松川教諭が行った。

2年1組の児童たちは、あるルールによって分かれている、クジの当たりはずれの決まりを見つけるために、紙に書かれている図形に注目して、折ったり切ったりしながら、当たりの条件を考えていた。もとの大きさを同じ大きさに分けた大きさであると気付くとともに、それが二分の一であることを学習した。授業の最後には、ノートにもとの四角形をかき、自分で二分の一の形を一生懸命に描いていた。



4年2組は、まず初めにこれまで学習した四角形の条件の復習を行った後、線を2本引き、その線が対角線になるように四角形を書く活動を行った。出来上がった四角形がどんな形になったかを考えることで、様々な四角形の特徴を知ることができているようであった。

どちらの授業も実際に触れたり書いたりすることで、考えを可視化することができていたため、一人ひとりの考えがよく分かる授業だった。



研究協議会では、新潟市立上所小学校 志田倫明先生にご講演いただいた。志田先生からは、指導する際に「単元を一言で言い切る」また、それを子どもたちが何度も口にする授業展開をしていくというお話を伺った。算数の授業を組み立てていく際に教師側が言語化することが大切であると感じた。